

## 有度山口ゲイニングが平均 1.8 倍楽しめる静岡案内

(数字はチェックポイントです！) 現在では日本平としか認識されていないこの丘陵地も、この名前がついたのはそれほど昔のことではありません。私が小学校4年生の時作った教材の地形模型は、「有度丘陵」でした。丘陵の主峰は有度山、地形図を見ても、現在の日本平と呼ばれている平坦な山頂部の東側に海拔 307m の有度山があります。

安倍と有渡、これはかつての二つの郡名ですが、この二つこそ静岡平野の地形を生み出したのです。現在でも静岡市の恵みの水源である安倍川は、かつて有度丘陵周辺を河口とし、海進・海退の繰り返しによって、逆さタマネギのような地層によって形成された有度丘陵の土台を形成しました。これらは根古屋累層(根古屋は久能山の麓の地名)、久能山礫層、小鹿礫層(静大麓あたりの地名)、などからなります。安倍川はその後も静岡の町の上を流れ続け、浅間神社を扇頂とする扇状地を生み出しました。市内では、浅間神社を中心に放射状に川が流れており、その一つが駿府城築城にも貢献した十二双川(55)です。また、現在でもその扇端に自噴井戸が多くある他、静岡市の水道も地下水に恩恵を受けた深井戸(7)に多くを頼っています。その一方で、傾斜の緩い巴川は古来水害の川で明治から大正にかけての改修(46)、七夕豪雨を契機とする大谷川放水路の建設(34)、土地区画整理(37)など、静岡市街地に大きな影響を与えています。

現在の有度山が生まれ始めたのは約 10 万年前です。その後年間 3mm づつ隆起して、現在の約 300m の有度山が形成されました。隆起する一方で、南側は駿河湾の海食作用によって削られました。10 万年で約半分が削られたので、風に吹かれて(33)、じゃないけど、後 10 万年は存在できるのでしょうか。この浸食作用によって海岸沿いの青沢には 1980 年代まで天井川(3)があったようです。地図には今でもトンネルが！日本平の絶景(52)も、久能山東照宮の特異な立地も、駿河湾の浸食作用が生み出したと言えるでしょう。なお、削られた砂礫が三保半島を形成されたと考えられていましたが、現在ではこの考えには疑問が呈されています。確かに、室町時代までは三保半島は島で渡し(71)によって行き来していたようですから、確かに砂嘴というのはおかしいのかもしれませんが。

有渡郡、有度村(53, 9)の山である有度丘陵が日本平と呼ばれるようになったのはなぜでしょう？日本武尊の東征伝説によります。景行天皇の命で東国を平定した尊は、この付近で賊の放った野火を剣で草を払うことで逃れたというのは有名です。これが草薙伝説であり、草薙の地名の由来だとされています。草薙神社(56)は景行天皇が尊を偲んで創建されたとされています。草薙の隣には馬走という地形がありますが、これもまた尊が休息の時に馬を放ったことから来た地名だとされています。日本平の名が本格的に使われるようになったのは近代に入ってからですが、山頂付近にも尊に因んだ顕彰碑(61)が建てられています。

有度山について語る上で久能山と久能山城(70)は欠かせません。7 世紀には海食崖にある久能山に久能忠仁によって久能寺が建立されました。1223 年成立の「海道記」には、「有度の濱をすぐれば、浪の音風の聲、殊に心済む処なり、濱の北東の聖地に山寺あり」と記されています。久能寺の山号は補陀落山。補陀落信仰とは、南海にある観音菩薩の住処である補陀落に対する信仰です。久能山の山門に立ち、晴れた日に南方の海を眺めれば、そこには浄土があるのかもしれないなあという気にもなることでしょう。羽衣神社(38)はこの有度濱にあります。久能山の巫女の禊の姿が伝説のインスピレーションになっているのかもしれませんが。

1586 年には武田信玄がこの地を要害の地であると認め、寺院は清水市北矢部(44)に移し、ここに城砦を築き久能山城としました。また家康も生前この地を「駿府城の本丸」として重視し、遺言によりこの地に眠るとともに榑原照久が奉祀を執り行ない、久能山を望む地に眠っています(16)。

